

決算特別委員会報告

—平成29年度決算をチェック—

慎重な審議を経て、平成29年度一般会計・特別会計・事業会計決算を認定しました

特に努力と改善を求めた事項は以下のとおりです

「やらんば！平戸」応援基金に頼った予算編成の見直しを

「やらんば！平戸」応援寄附金」に、寄附金が前年度と比較して約5億8千万円減少している。「やらんば！平戸」応援基金に頼った予算編成を見直し、各事業の在り方を再考するように。

「災害対策事務経費」に関する避難指示の在り方の検討を

「災害対策事務経費」に関する避難指示が出ていない段階での避難指示の在り方を整理すべき。

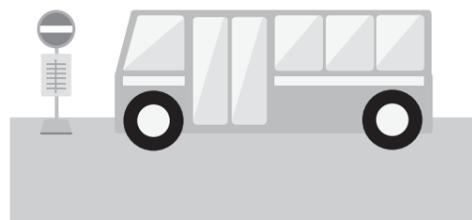
進捗管理の在り方の検討を

「行政改革事務経費」に、公共施設等総合管理計画が策定されたものの、進捗管理の状況が見えない。マネジメントする部署の在り方を真剣に検討するように。

路線バスの運行状況の検討を

「路線バス維持対策事業」に、利便性向上につながる運行や路線の改編、また、中南部地区のふれあいバスも運行方法の在り方を検討するように。

現在、路線改編も含め、市内全域の交通体系の見直しを図り、愛のり交通活性化委員会から意見をもらっている。ふれあいバスは、予約制の運行方式などを含め検討していきたい。



連携強化と空き家の活用を

「ワンコインまごころサービスマ」に、仕事を頼みやすい環境を整えるために、

各地区のまちづくり運営協議会とも連携する必要がある。また、シルバー人材センターの会員数を増やすために、各地にある空き家を活動拠点として活用することも検討するように。

個々人に応じた支援の充実を

「生活困窮者自立支援事業」に、就労支援希望者のうち就労につなげていない人にどのような支援をしているか。

福祉的就労を支援するなど個々人に応じた支援を実施している。しかし、就労することが困難な場合は、生活保護や他制度で活用できる支援がないか検討し、支援している。

各団体と協力し受診率向上を

「がん検診事業」に、がんは予防と早期発見・早期治療が重要。ピンクリボンなどのボランティア団体やまちづくり運営協議会とも連携し、受診率の向上に努めるように。

市民の安全を守る取り組みを

「海岸漂着物地域対策推進事業」に、何年もごみが放置されている場所があるの、現地を確認し、対応するように。また、外国製のポリ

成果を高める努力を

「地籍調査事業」に、平成29年度までの事業進捗率は9.9%で、事業完了までに約50年かかる予定。地主の高齢化などにより今後ますます現地立会調査などが難しくなることが予想される。計画通りに事業を遂行するために、成果を高める努力を続けていくように。

的確に市民ニーズの把握を

「公営住宅整備事業」に、人口減少が進んでいるが、計画通り公営住宅の建て替えは必要か。また、政策的空き家（解体を予定し、入居募集を停止している住宅）の中には、草が生い茂り、危険な要素がある住宅が見られる。この空き家は早急に解体するか。

A 建て替えは、現在解体を予定している住宅の入居者の転居先や新しい住宅に住みたいという市民のニーズに合わせるためにも必要。今後も平戸市公営住宅等長寿命化計画に基づき、適切に整備していく。政策的空き家については、用途を立ててまとめて解体する予定。



▲消防出初式(1月5日)での分列行進

平準化への適切な取り組みを

「自然公園管理運営事業」に、以前から指摘している土地借上料の平準化がいまだ実行されていない。

訓練出勤率の向上を

「消防団活動事業」に、各地区の訓練出勤率が、高いところでは86・56%、低いところでは42・86%と差が出ている。改善策を提起していくように。

A 早朝に訓練をしたところでは出勤率が上がったという実績もあったので、さまざまな活動報告を分団長会議で示し、全地区の出勤率が向上するように指導していきたい。

成果の向上と費用軽減を

「平戸市ICT教育推進整備事業」に、タブレットパソコン一台当たりの単価が高い。県下の他市町の学校と十分な比較検討がなされたのか。

A 子ども達とともに双方向の授業を行うことで、より効果的な授業に改善したいというのが第一にあり、ICT検討委員会等で検証を重ねてきた結果、今のタブレットパソコンの購入となった。

ICT教育の推進にかかる総経費の見込みは。

A 平成35年度までの実施計画上の費用として教師用タブレット、児童生徒用タブレット授業支援ソフト等の購入費用として約1億9千万円程度を見込んでいます。その他保守料やLAN工費が必要となる。

機器等の整備には多額の経費を要し、将来の更新費用等の負担増大が懸念される。来年度以降機器を購入する際は、機種選定などを含め、経費軽減に努めるように。

A 構成や保守契約の在り方の見直しの検討により、経費削減につなげたい。

缶や注射針などの危険物が数多く漂着している現状を訴え、補助金の継続と補助率のアップを要望していくこと。また、ボランティア団体などと連携して、効果的な事業推進に努めるように。

安全対策と格差解消を

「イノシシ被害まちなか対策事業」に、イノシシによる事故を未然に防ぐため、市民への注意喚起を行い、より効果的な対策に取り組むように。

A 猟友会とも協力し、イノシシの捕獲や防衛・棲み分け対策に、さらに力を入れる。また、先進事例を研究し、より効果的な対策に取り組んでいきたい。

「土地改良推進事業」に、土地改良区に対する運営費の助成について、地域によって差異があり、いまだ統一されていない。全市的に均衡がとれる方法について検討するように。

A まずは、旧平戸市内の4つの土地改良区に対し、現状や課題について意見交換を行う予定。また、地域間の格差解消については、これまでの経緯も踏まえ、調整していきたい。

健康寿命を延ばす取り組みを

「平成29年度平戸市後期高齢者医療特別会計決算認定について」に、被保険者数6,823人に対し1人当たり91万8,176円の医療費がかかっている。医療を受けている後期高齢者の情報をしっかりと把握し、他事業などとも連携して、健康寿命を延ばす取り組みを進めていくように。

介護サービスの充実を

「平成29年度平戸市介護保険特別会計決算認定について」に、介護サービスについて、団塊の世代が75歳以上となる平成37年に介護施設が不足しないのか。

A 高齢者は今後減少していく見込みであり、また、住民主体の通いの場の拡充など、介護予防の推進により、今の施設数で施設サービスが必要となる人が減っていく。併せて、介護サービスに必要なホームヘルパー等の介護職の人材確保にも力を入れていく。

適切な施設の維持管理を

「平成29年度平戸市農業集落排水事業特別会計決算認定について」に、今後どのような改修を見込んでいるか。

今後も医師確保に努力を

「平成29年度平戸市病院事業会計決算認定について」に、本市の両市立病院は深刻な医師不足の問題を抱えている。経営状況を考慮して今後も医師確保に努めるように。

また、本格的に動き出した平戸市未来創造羅針盤(第2次平戸市総合計画)を確実に進めていくためには自主財源の確保、起債の抑制、経常経費の節減など常に行財政改革の意識が必要。その上で、「夢あふれる 未来のまち 平戸」実現のために指摘事項を真摯に受け止め、次年度以降メリハリのある予算編成が行われることを期待する。